平成 30 年度　第２回　市長と語る車座ミーティング（意見交換概要）

【開催日時】平成 30 年 11 月 14 日（水）午前 10 時～午前 11 時 30 分
【開催場所】市役所本庁舎２階第２委員会室
【申込団体】東御市男女共同参画推進委員会
【参加者数】６名（市長、市職員を除く。）
【懇談テーマ】市長が考える男女共同参画について

①雷電を輩出した市として、相撲の女人禁制についてどう考えるか
②災害時や緊急招集等を考えた時、市職員（管理職含）女性登用についてどう考えるか
③行政自らが男女共同参画を実践し、市民や企業に示すためにも市職員の働き方改革をどう考えているか
④災害時、女性（市民）の役割について市長の考えは

※議事については、主な内容を抜粋して掲載しております。
個人のプライバシーに関する部分などについては、一部内容を割愛しております。また、意見交換の内容は開催日時点のものであり、現在の状況と異なる場合がありますことを、あらかじめご了承ください。

【概要】

①雷電を輩出した市として、相撲の女人禁制についてどう考えるか

（委員）

市内でも子ども相撲が盛んに行われているが、女人禁制についてどう考えるか。

（市長）

日本における文化と文明は共存していくことが重要です。時代によって失われた文化、根付いた文化がありますが、時代の変化に柔軟に対応することが必要と考えます。また、人の生死がかかっている状況と、それ以外の状況では分けて考えることも一つの方法です。

（委員）

女人禁制の問題も、女性への穢れ意識からであったと思われる。男女共同参画を進める上では、こういった古い考え方や意識を変えていく必要がある。

（市長）

焦点となる穢れは日本独特の文化で、海外からすると珍しいものです。穢れ文化の全てを否定するよりも、良い部分は残し、現代に合った形に変化させていく必要があると考えます。

②災害時や緊急招集等を考えた時、市職員（管理職含）女性登用についてどう考えるか
④災害時、女性（市民）の役割について市長の考えは

（委員）

類似する項目のため合わせてお聞きする。「女性は災害時や農業の力仕事には役に立たないから別の仕事を」と言っていた方がいた。確かに女性は力がないが、訓練や講習次第ではいかようにも活躍できると考えるがいかがか。

（市長）

災害時に女性の意見をどのように反映できるかが重要です。防災会議に女性の委員に加わっていただき、避難所でのプライバシー確保等、避難者の半数を占めるであろう女性や子どもにも配慮できる避難所を設営する体制づくりを進めています。女性に限らず様々な方の意見を取り入れ、災害時の対応を具体的な想定のもと準備したいと考えています。

（委員）

男女で同じことをすることだけが男女共同参画ではなく、様々な方の意見を聞くとい

うことが男女共同参画だと思う。みんなでできることを性別関係なく協力できるように意識を変えていきたい。

③行政自らが男女共同参画を実践し、市民や企業に示すためにも市職員の働き方改革をどう考えているか

（委員）

女性の管理職増加は大切だと思うが、男性でも女性でも人の気持ちを理解できない人もいる。女性の管理職を増やすことも重要だが、人の気持ちを理解できる職員や管理職を育成し、意識を変えてほしい。

（委員）

子どもができない人は、子どもがいる人達のために、休日代替えを頼りにされてしまうという問題もあるという。

（市長）

人材育成の面からみると、女性職員も男性職員も、以前より「市を背負っていく」という意識に高まりを感じています。

今後は、女性がどこでも半数程度いる状況で、女性に優しい環境を作り上げていく必要があると思います。休暇に関しても、産休育休の取得は増加していますが、産休明けの環境整備はこれから取り組む必要があります。休暇を取る側と残る側、お互いの理解と協力がなくてはなりません。